

学校教育目標		めざす子どもの姿	総合評価					
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子		・思いやり、思い合い、 認め合う子ども ・自分を高めていける子ども	新型コロナ感染拡大防止のために新たなルールを守りながら、元気に活動した。それぞれの 場面で新たな工夫をして活動した。さらに、自分から求め自分を高めていく姿を目指したい。					
今年度の重点目標		成果と課題	総合評価	改善策・向上策			学校関係者評価	
<b>重点1</b> にこにこ交流 ＜笑顔でかかわり合える＞ ①つながりをつくる学級 安心できる人間関係づくり ②地域から学ぶ・地域の教育力を活用する。 ③健康、安全安心のための家庭・関係機関との連携		休校中から家庭訪問や課題を通して、こまめに担任とつながりを作る取り組みをした。おかげで元気に皆元気で登校できている。 学校一丸となってコロナ対策をし、ルールを守って学校生活を送っている。 野外での活動では地域の方の力を借りて活動した。	B	これからも学校医や学校薬剤師に助言をいただいたり、PTA や保護者、地域の方と相談しながら感染防止に取り組む。 地域との交流は現段階でできる交流を工夫したい。				
<b>重点2</b> もくもく清掃 ＜心を磨く＞ ①自発性を育てる自問清掃 ②キャリア教育の推進 ③道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実 ④自分たちでつくる児童会		自問タイムから始まる自問清掃が行われ、自分から動こうとする姿が出てきている。 休校し、自主的な活動が難しい中、正副委員長が中心になり活躍した。当番活動はよくできている。ウイズコロナに応じた活動が生み出せた。	A	2学期は縦割り清掃を実施する。 運動会や音楽会、なかよし祭りを「ウイズコロナ」に対応して、方法や内容を工夫して運営・計画していく。				
<b>重点3</b> ばんばん学習 ＜わかる・できる・目が輝く＞ ①日々の授業の充実 主体的・協同的な学び・TT支援や教科担任制・授業のユニバーサルデザイン化 ②基礎基本の定着・学びの基本姿勢の徹底・「4つの学び」の日常化 ③武石っ子運動の充実 元気アップタイムの実施 ④小中一貫連携型を視野に入れたカリキュラム作りと連携		学習の基本姿勢づくりと4つの学びを意識した授業の実践ができた。チャイムで始まる授業・集中できる環境づくりをし、メリハリある生活リズムを作った。 新しい生活様式になり制約が多いが基本を大切に学習を繰り返した。 国語・総合で地域への発信を生かした授業に取り組んだ。 休校の2か月間をとりものすべくカリキュラムの編成や、学習の方法・内容の工夫等行った。	B	みんながわかる・できる授業をするための手立てについてさらに研究を深めていきたい。 学校でないとできないこと、家庭でもできることを判別し、休校による時数削減に対応していったり、生活・総合と各教科を結びつける学習展開の工夫をしていきたい。 今後休校になったときの対応は、ICT機器の活用も含めて検討しておく。 子どもたちの目が輝き、主体的に動く体験・探究的な学習活動を展開していきたい。				
領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教 育 活 動	体力向上	心身の健康と体力作り ・元気アップタイムで継続的な運動の取り組みが図れたか。 ・家庭へのメディアコントロール推進と朝ご飯摂取の働きかけを継続しているか。	定期的・曜日別の元気アップタイムで運動への意識が向上している。TKS体操は定着した。 第1回の元気もりもりチャレンジ週間では87%の児童がメディアコントロールに取り組めた。		○			・家庭でもできる体力づくり運動を行いたい。 ・行事をきっかけに規則正しい生活リズムを作りたい。 ・ゲーム上でのトラブルが起きている。情報モラルの講演会など家庭を巻き込んでの取り組みが必要。
	学力向上	学びの基本姿勢の徹底	・武石の学びを支える基本的な学習ルールを定着させることができたか	年度当初、意識して取り組んだ。定着できているが、個人差がある。集中力の継続に課題がある児童がいる。		○		引き続き習慣化できるよう働きかける。学習展開の工夫やノートの支援を粘り強く行う。
		「みんながわかる・できる」授業づくり	・授業のユニバーサルデザイン化や「4つの学び」を進めることができたか。 ・グループ・ペア活動等、友とのかかわりの中で「みんながわかる・できる」工夫をすることができたか。	「伝える」は子どもの意見やノートにまとめた考えを見せたりして広げた。書画カメラやデジタル教科書を効率的に利用した。 算数では自分のペースにあった学習場面や、自分の言葉で説明する活動の設定、ノートの書き方の工夫をした。		○		ペア学習やグループ学習の時間を確保し、伝えあい、自分の考えを深める活動を大切にしたい。
	情操教育	自主学習の定着	・「つむぐ」の活用ができているか。 ・放課後自習室の活用ができたか。	「つむぐ」の活用により自主学習が定着してきた児童がいる。 支援ボランティアによる放課後自習室は運営できなかったが、教室で担任の指導の下で自習や補習ができた。		○		今後の自習室のありかたについてはこれまでの経緯を踏まえて地域の方を交えて検討していきたい。 保護者へ自主学習の見守りとアドバイスをお願いしていく。
学 校 運 営	地域との連携	人権が尊重される教育活動や人間関係づくり	・学級・他学年交流・児童会活動の中で、また地域の方ともつながりをつくる活動ができたか。	1年と各学年とのかかわりの時間を取って交流を行ったり、読み聞かせ交流を行った。学校新聞を通して地域とつながることができた。各学級を取り上げてもらって、学級の集団意識を高めることができた。	○			6年生の新聞づくりのように、直接触れ合わなくてもつながりを意識した活動を創り上げる。 支会人権教育公開授業に向けて「あけぼの」の教材化を図る。
		相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切にされた相談を行い、支援につなげることができたか。	休校中も開けも心配な家庭や子供に対してその子のペースに合わせて支援を続けた。普段からの声がけに加え、相談週間では1対1でじっくり子どもの声を聞いた。		○		子どもや家庭に寄り添って相談に乗り、校内内部で支援の方向を十分協議し、そのうえで必要があれば、外部と連携を取っていく。
		情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	各担当・学年で十分伝えている。6年生が壁新聞で学校の様子を伝えることができた。	○			ホームページ更新は遅れがちになってしまう。8月から配置されたSSSにお手伝いをいただく。6年児童が映像での発信を考えている。学級の話は平等に定期的にアップしていく。
	研修	地域から学ぶ・地域の教育力の活用	・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	しいたけコマうちや大豆・米作り、林業学習等地域の支援がありがたい。武石川をもっと生かしていきたい。	○			これからもコロナ禍の中ではあるが、工夫して地域の方のお力を借りていきたい。2学期の地域巡りや稲刈り、大豆の収穫、森林体験等で支援いただく。
		授業力の向上	・「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	学校再開1か月のうちに授業公開したことで自分の課題と向き合うことができた。計画通りに体育と特別支援教育（授業のUD化）の授業を通して学んだ。	○			各担任・各担当が行っている「みんながわかる・できる」ための工夫を全職員で共有したい。そして学んだことを継続し深めていきたい。
組織	情報の共有・全職員による学び合い・支え合い	・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	気になる言動があった児童については担任と連絡を取り合っている。また問題が起きたとき、情報を素早く共有できた。チーム力を感じた1学期だった。	○			担任・担当が一人で悩んだり、抱え込んだりせず同僚性を発揮して支援・指導に当たりたい。授業参観・交換授業を積極的に行い、他のクラスから学びたい。	

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない